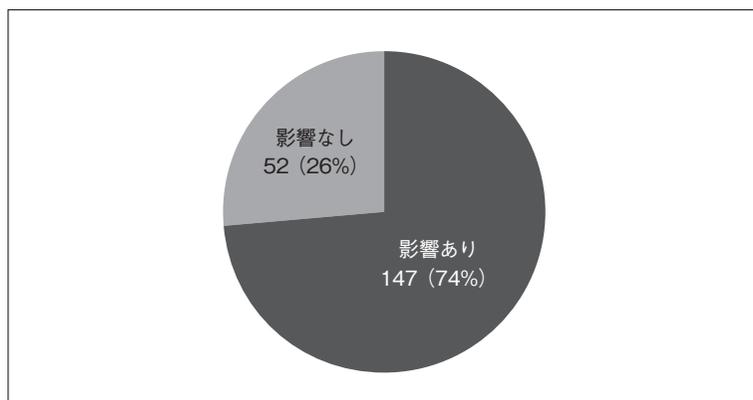


# 新型コロナウイルス感染症が オペラ公演活動に与えた影響に関するアンケート

国内のオペラ団体及び制作団体等に対して、『日本のオペラ年鑑2020』の編纂のために実施した資料提供依頼と合わせてアンケート調査を実施し、2021年2月～10月にかけて199件\*の回答が得られた。以下、回答結果を掲載する。

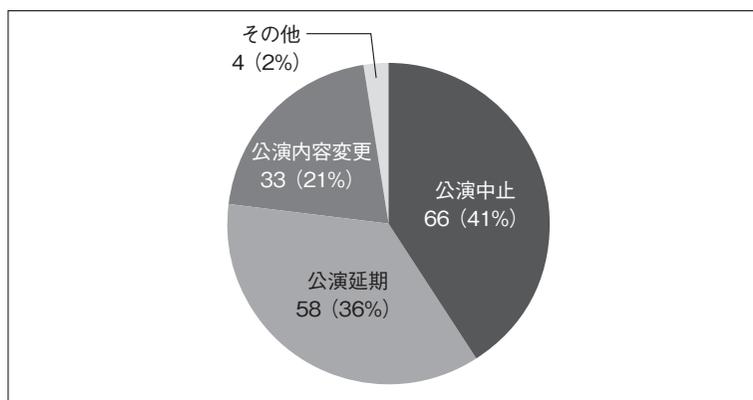
\*内訳は、オペラ団体、オーケストラ、自治体設置財団、劇場・音楽堂等、教育機関、マネジメント・音楽事務所等である。

問1：2020年1月以降に新型コロナウイルス感染症拡大により、貴団体が関わるオペラ公演に影響はありましたか？  
(選択式回答)



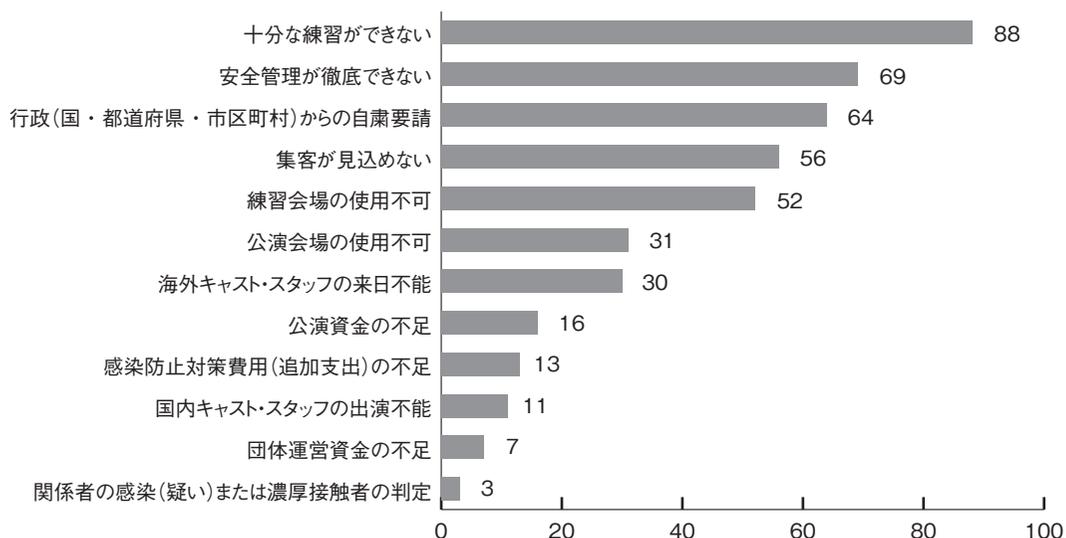
問2：問1で「影響あり」を選ばれた場合、その内容をご回答ください。

(選択式回答／一部複数回答あり)



問3：問2について、「公演中止」「延期」「公演内容変更」となった要因を教えてください。

(選択式回答／複数回答可)



問4：問3に対する自由記述(抜粋)

※団体名が特定されないよう、回答を一部改変した。

- ・公演延期としているが、公演の見通しがたたない(事実上の中止?)。
- ・練習会場として都内の公共施設を予定していたが、コロナによる利用制限のため、声を伴うオペラの稽古では使用できなかった可能性が高い。
- ・楽屋等での感染対策(合唱、オーケストラ、キャスト等)などの難しさからグランドオペラの実施を見合わせた。
- ・ステージ上の奏者間のソーシャル・ディスタンスを保てない。
- ・感染拡大防止への協力。
- ・当施設で関わるオペラ公演はない(自治体主催の公演は予定していなかった)。
- ・劇場・音楽堂における公演再開のための要件が明確でない現状を踏まえ、子ども対象のフェスティバルについて、子どもやその家族、出演者、関係者の健康・安全面を第一に優先するには、予定通りの開催は難しいと判断した(2020年5月中旬に中止決定・発表)。
- ・当団体は国際オペラコンクールであるため、国内外からのコンクール構成スタッフ(審査委員、オーケストラ、運営ボランティア等)やコンクール応募者、来場者の安全性を考慮し開催の延期を決定した。
- ・2020年3月25日に東京都の自粛要請を受け、2020年3月27日以降の全公演中止(オペラ公演は全て延期中止)を決定した。
- ・当施設はクラシック音楽ホールのためオペラ公演はないが、クラシック公演の中止、延期は複数あった。

- ・公演開催を目指して以下のような対策を取り、10月～1月中旬まで講習を行ったが、最終的には緊急事態宣言の延長により公演中止となった。オーディションの延期／実施方法の変更（通常公演→演奏会形式への変更）／合唱団員の削減／講習開始時期の変更／リモート講習の導入／公演延期（2月中旬→3月上旬）
- ・2021年5月に予定していた本公演は2020年9月にキャストオーディションの予定だった。不透明な状況から一年延期とした（2020年7月決定）。2022年5月の公演に際し、合唱付きの演目を外し、公演規模を縮小して公演することとした。（2021年1月決定）。
- ・合唱団員に高齢者が多く、ほとんどの人が出かける事に不安を感じて来られない状況だった。
- ・2020年2月下旬に当団体恒例の小規模な公演を行った。感染がじわじわと拡がりつつある状況で無事に上演できたのは奇跡的かもしれない（数日後から自治体の施設が全てクローズ）。以降練習会場が見こめず、早い段階で一年延期を決めた。
- ・2020年2月末で当初コロナウイルスが感染拡大していたため。
- ・大学の遠隔授業開始のため環境整備として在学生への支援金を支給したため。
- ・2020年10月に定期公演として計画していたが、指揮者、キャスト、スタッフを招くことが困難となったため、公演の内容をコンサートに変更した。稽古は全てリモートで実施した。
- ・2021年2月実施予定のオペラ公演が内容変更・延期等影響があったが、概要についてはまだ確定していない。
- ・緊急事態宣言発出のため。
- ・本公演は2021年に延期とし、1.5mずつ距離をあけ全員マスク着用で歌唱のみ、という形のハイライト・コンサート形式で上演した。
- ・2月実施のオペラ公演が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けずに済んだ最後の公演となった（当施設コンサートホールでの）。
- ・劇場、ホールへ足を運ぶことを敬遠するお客様が多く集客が大変に厳しい上、客席数も減らさなければならぬ。チケット収入が激減するにもかかわらず感染対策で経費はかさみ、大変厳しい状況である。
- ・オペラの予定でプロジェクトを進めていたが、あらゆる面で安心・安全リスクが確保しにくいと考え、大幅に客席数を制限し短縮形の演奏会とした。文化庁の活動継続支援金などのおかげで今年度はどうにか凌ぐことができたと感じている。一日も早く、のびのびと舞台活動ができる日がおとずれることを願うばかりである。
- ・教育現場での公演のため授業展開に苦悩の日々だった。三重唱までのハイライト公演とし、演出的にも歌えるマスクを使用してのソーシャル・ディスタンスを意識したものとした。
- ・毎年行われている夏の音楽フェスティバルが中止になった。
- ・ワクチンや治療薬がない状態で、歌手たちの練習を行うことが不安な状況だった。また声楽不可の場所が多かった。
- ・2020年の公演計画は無かったが、練習が出来なかった。
- ・ファミリー対象作品のため、完全なる安全が確保できない。
- ・観客を入れての本公演は1年の延期となったが、東京都、文化庁の助成を得て無観客での同オペラの動画を3本製作した。動画には日本語と英語のテロップも入れ、作品の魅力と研究の成果を発表した。

- ・キャンセルが続出した。しかし神奈川県文化芸術活動再開加速化事業に指定され、映像化を行った。補助金は得られたが出費も重なった。
- ・本年度は元々オペラ公演の予定はなかったが、来年度公演に向けたワークショップを開催中。
- ・当初の予算より、延期のために発生した費用の増加が課題となっている。
- ・各指導者及び稽古ピアニスト、参加団員へ開催調査を行い今年度の中止を決定した。団員のコロナへの不安感が強く、練習意欲が損なわれ、参加者数が見込めなかった。
- ・個人プロデュース団体のため集客および資金面に限界があり、定期的な公演を設定できない。助成金対象ではなく、加えて新作オペラ制作のため経済的な負担が大きい。
- ・学校公演が多い当団体では、生徒の安全確保を最優先とする学校の決定や考えに寄り添い、延期・中止などの措置をした。
- ・市民参加型事業だったため、安全を優先して公演を中止した。
- ・主催公演が緊急事態宣言発出前に終わられたことは幸運だった。キャンセルも出たが決行に至った。その後非常に厳しい状態が続いているが、何とか乗り越えられればと考えている。
- ・新作オペラ制作を手掛ける中で、海外へ日本の文化を発信することを趣旨に盛り込み、また、海外からの観光客誘致を視野に入れて計画していたため、その指標に沿うことが見込めない状況となったことが大きな要因となった。新作オペラということで多くの方々に初演に立ち会っていただきたい各都市の思いはあった。
- ・当初の2020年4月下旬の予定から、2021年1月、7月、8月、10月のいずれかに延期予定。
- ・毎日のように不要不急の外出を控えるようにという呼びかけがおこなわれ、外出することができない状況であった。人と接しないことが感染拡大防止に必要とされ、会話することも不自由な中、歌を歌うことにためらいが大きかった。
- ・感染者の増加を見ながらぎりぎりまで判断を決めかねていたものの、急増によって一年延期を決めた。
- ・会場の客席数が半数に制限された。
- ・奇跡的に緊急事態宣言の狭間で公演できたが、当初の予定の4月下旬であれば中止となっていた。上演には準備が必要なため、経済的に大きな打撃を受け、また事後処理に大変な苦労がかかったと考えられる。
- ・国、都道府県からの急な要請のため、観客の安全第一を優先し公演を中止及び延期とした。
- ・主催者側の判断。
- ・2021年2月に向けて企画を進めている段階でのコロナ禍で、企画の時点で中止・延期となった。
- ・子どもを70名程度集めての練習をする場合、練習場所までの交通機関、学校での状況を考え、安全に発表公演までもたないと判断をし、共催者等にも相談し延期した。
- ・2021年2月に予定していた公演スケジュールの大幅な遅れはあったものの、練習会場の変更やZoomによるリモート練習の実施により準備を進めていたが、緊急事態宣言が1月に発出されたため3月に公演を延期した。しかし、その延期した予定日も解除の見通しがつかないため、最終的に中止の決断に至った。
- ・公演企画が全く立たない状況となり、全て計画立直しとなった。
- ・行政からの指示により、収容人数が50%となったため収益が減少した。(2021年1月中旬実施)
- ・計画が元々なかった。

- ・イタリアで製作していた大道具、小道具、衣裳作業がストップし、作業が間に合わない。公演水準を維持することができない。
- ・1年の先延ばしにより、練習やスタッフに係る経費等支出は増大した。反面、観客動員数の50%制限、実施することが条件となっている助成金の制度的なこともあり、やってもやらなくても膨大な赤字という致命的な打撃を被る結果となった。
- ・オペラを行うまでの練習が確保できないことや、会場にもいろいろな制限があったため、オペラ公演ではなくソロ・重唱での演奏会とした。

問5：その他、ご意見等ありましたらお書きください。（抜粋）

※団体名が特定されないよう、回答を一部改変した。

- ・公演の実施が困難な状況であったためオペラ衣裳展を企画したが、コロナによる施設の休館に重なり中止となった。
- ・今回の公演作品は、制作を委託されたが主催は別の団体だった。全国には同様な自治体や教育機関主催のオペラも多くあると思われる。そうした主催者への調査もお願いしたい。
- ・感染症対策で実施したこと（以下）
  - \* 稽古段階で消毒、マスクの着用、パーティーション等での感染症対策を実施。
  - \* オーケストラピットの深さをいつもより浅くし、ピット内にサーキュレーターを設置（換気のため）。歌手からの飛沫を防ぐためにピットの半分を屋根で覆った。
  - \* 舞台装置で合唱タワーをつくり、舞台上の密集を緩和した（タワー内は個室で接触を避ける構造になっている）。
  - \* 出演者及びスタッフ全員に消毒液ボトルを配り、小まめな消毒を促した。
  - \* 個別楽屋にはサーキュレーターを設置し、換気に努めた。
  - \* 客席の前3列を売り止めとし、舞台からの飛沫防止を徹底した。
  - \* 関係者以外の楽屋出入りの制限・出演者及び出演者に密接に関わる舞台スタッフ等へのPCR検査を実施した。これらの実施は制作側にも出演者側にも大きな負担となった。
- ・2020年度は当初よりオペラ公演の予定がなかった。しかし、2021年度スタート予定だった新シリーズも社会情勢に鑑み、プロジェクトを一旦停止させざるを得ない状況だった。
- ・飛沫対策が問題。
- ・昨年の時点では昨年予定していたオペラ公演を延期とアナウンス。しかし、現時点では中止とした。年内（2021年）の見通しが立たない。
- ・当団体のような小規模の公演は、例年とは同様に出来なかった部分を以下に記したいと思う。
  - \* 舞台上でキャストのソーシャル・ディスタンスを確保すると共に、間に透明のパーティーションを複数枚配置した。
  - \* 手を取り合う、抱きしめる等の動きは一切排除する演出で公演を実施した。抜粋での公演であったが、各場面（1つのシーン）終了後にキャストが代わる際、その前に演奏したキャストが関係したパーティーション・道具類を、各キャスト自身がアルコール消毒（拭き取り）を行ってから次のシーンに入っていた。（転換明りの中で消毒を実施）

- \*伴奏は2台のピアノと電子チェンバロで行ったが、キャスト（舞台）とピアニスト（客席面）の間にも複数枚のパーテーションを設置した。
- \*各キャストはマウスシールド（またはフェイスシールド）を装着して演奏した。（指揮者・ピアニストもフェイスシールドを着用した。）
- \*客席の指揮者に近い2列は着席不可とし、その他の客席も密にならないよう着席可能な席を指定した。
- ・演奏会は1回（6月）中止したが、オペラについては予定がなかったため影響なし。
- ・定期演奏会の実施については集客が見込めないことから中止案も出たが、外部指導者の指導を受けたいという会員の要望もあり、赤字承知で開催。ホールは入場制限（客席の20%まで）があったほか、利用に際しては厳しい条件があった。
- ・2020年1月以降オペラ公演の計画はなかった。他の活動への影響はあった。
- ・2021年は2年に1度の公演の年に当たり、11月に実施予定ではあるが、練習会場確保、収入減、感染防止対策など、前途多難な状況である。
- ・令和元年度公演については影響なし。令和2年度公演については客席収容率50%で実施。
- ・生の演奏やエンターテイメントに対する風当たりが強く、音楽活動が非常に制限されており、特に「歌」に関してはアマチュアコーラス等も含めて広範囲での文化芸術活動の存続が難しい状態が続いており、とても危機感を感じている。
- ・演出面ではコロナ禍ならではのものとなり、興味深いものとなった。
- ・2020年は公演の予定がなかった。
- ・「影響なし」と回答したが、オペラとして上演出来ず演奏会形式へ変更となったため影響はあった。又、歌曲演奏会は延期を余儀なくされ、オペラ公演の開催が難しく、「中止」はしなかったが影響を受けた。
- ・緊急事態宣言直後、公演延期を決断。当初ホール使用料は返却不可だったが、ホールの検討により1ヶ月程で返金があった。弱小団体では持ち出し公演がほぼ常態化しているのでありがたかった。
- ・全く影響がなかった訳ではない。会場の人数制限が行われたり、座席が取り払われたりした。11月の公演は国も都道府県も解除が出ているのに自治体の解除がなかなか降りず、交渉に行った。とにかく、行政とのやり取りに追われた。
- ・実施、企画はなかった。
- ・海外アーティスト・スタッフ招聘に関しては、検査やワクチン接種の状況により入国に対して特別な措置を1日も早く検討してもらいたい（海外在住日本人も含めて）。
- ・出演者同士の会話、近距離での練習（演技）が今までどおりにできないことを理解し対策をしなければならぬ。新しい工夫と発想で、かつ不自然ではないものを作っていく努力をしている。
- ・完全な収束が見込めない中、メンバーのモチベーションの維持が困難になりつつある。
- ・このご時世に集客するということがいかに大変かを痛切に感じた。「音楽」は不要不急なのかという問題をあらためてつきつけられた思いである。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止・延期になった公演は主な作品について44件（延期後再延期になり、結局中止になったものも含む）、被害額は800万以上になる。それに見合う補償はまるでないため、大変厳しい状況になっている。

- ・具体的立案まで進んでいなかったため正確には「最初から無かった事」のような感じ。
- ・コロナ禍にあえてオペラ、合唱等を行うことのリスクは多々有るかと思うが、感染対策を二重、三重にも心掛けて公演実施に向け進んできた。しかしオペラ、合唱という演目から、感染リスクの壁を打ち破って公演を実施するというコンセンサスを得ることが難しいと実感した。
- ・2021年1月の公演は舞台を立ち上げ、レクチャーと公演として、公演は実舞台でバックスクリーンにVTRを流す。